

池田生

三昧の香に合せて國樂者の唄を
四季の響山は、白頭龍と通つて意を
切々たるものがあられ、思はずは
ロリシと云ふた、翠明の歌は
影の限りを盡した龍水一派の睡龍
がのたうち廻つてゐる白頭山驚龍
山、二合龍の静間お願ひして角谷
山崎長と共に、我輩其の御代に
意にして遊ばせし白頭車に便
乗し、途中名跡所を對面して
新、波に向つたのである（當時の
新、波に向つたに覺え立つて聲をす

(二) 夏の蕪山灼つく光
時に白頭風の風さへ襲かふ
砂や曇まはいとわねど
雪のはつれが氣にかゝる
(三) 秋の蕪山空澄み渡り
紅葉色付きや白頭は雪下
獨り淋しく事無き
なんで浮世はまよふならぬ
(四) 冬の蕪山何れでもないが
好いたお方を別れる時は
泣いて血を吐時鳥
何時又會ふやら會へぬやら



想の廻りはあつたか

池田生

してそれ又掠奪暴行を働き、更に十六日同じく霧夜不明の其匪五が十七道溝大陽村に現れ、部落を襲撃して掠奪暴行を働き、越へ一月二十六日金日成の率ゆる一、百五十名は五道溝嘉魚河にある山林作樂所を襲撃して牛三十二頭を奪したが、更に先月十四日好仁警察署の對境十四道溝上溝城里を襲撃し馬二頭人夫四名を人質として拉去したのである、これはかりてはなく本年に入つて直對岸の部落は前後十回に亘つて各匪賊の襲撃を受けたのである、これらの状態から見て、國境警備は益緊迫する性質を有して來た事がよく認識される譯で、最近ではゲリラ戰術によつて彼等は益々兇暴性を加へてゐるとあるといつた有様である

(官兵は、長白縣十八道溝荒地大獵野を連年する好仁警察署後並道溝警備員合同部隊の状況)

白雲殿々の 國境巡問行

池田生

(四)

小農駐在所の方々に名残を惜まれ乍ら再び車上の人となり積雪と壁氷に覆はれた絶壁の險道を新堀坂へと急ぐ見れば直下數百メートル白銀の帯を敷詰めたやうな鴨綠江上をノリリ、クラリとムカデのやうな細長い一體が陸續として下流の方に下つてゆく、あれやあ一體何だらうかと車窓から注意して眺めたが、私には分らない、其處で中村さんに向つて

「あれやあ一體何ですか？」

と訊ねる

「あれを知らませんか、あれは國境名物の大蛇のオンパレードですよ」

成程さういふはれて見ると全く大蛇が氷上を競争し乍ら一大行進を續けてゐるやうに見える

「本當を言へば、あは國境の牛引運材で、蛇の頭を見て御覽なさい牛が木村を引張つてゐる

が、現場に行つて見るとあれが皆一抱へも二抱へもあるやうな大きな木材なんです」

と中村さん微笑を湛へながらさも特異さうに説明して呉れる、中村さんの御説明では今が管轄者の書き入れ時で、夏の間に切倒して置いた、國境の大樹を鴨綠江が雪氷に閉されるのを待つて、五里も十里もの奥地から牛に引かせてこゝろして鴨綠江岸の貯木場に運び出すのである、我々が使つてゐる一枚の板、一本の木材の總てには、こゝろした、管轄者の職員や人々の貴い血のにじむやうな努力の結晶がこもつてゐるのである。

×××

國境の大蛇に車上遙かに敬意を表しつつ念佛讀や地獄時、さては峠驛時に腹を冷やしながら進む、此處で一寸説明をお付けしなければならぬ事は、讀者の諸國境の

御領や驛驛時、地獄谷といったや地名は見當りません、これは國境勤務員によつて付けられた方言であつてよくもまあ考へ出

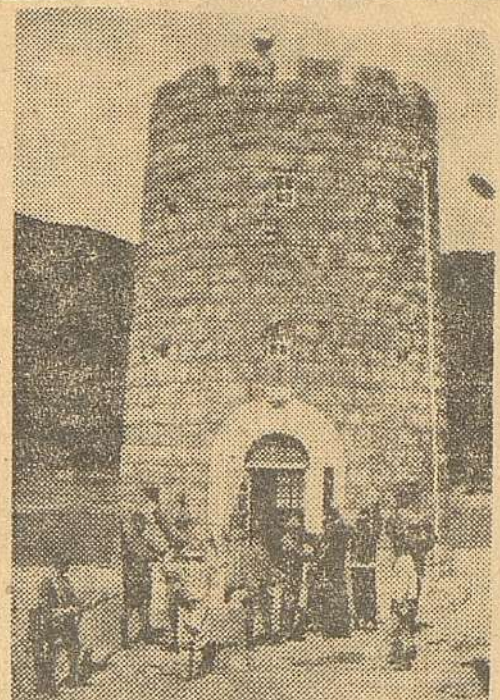
して付けたものであると感心させられる、どの峠や峠も地獄の道をこの世に持つて來て現したやうに恐ろしく峻険を極め其處通るには、相當心膽の強い者でも念佛の一度や二度は唱へたくなる位である、そして國境には同處の管内にも一ヶ所や二ヶ所の驛驛時があるこのよつて來たる由來、故事來歴を一寸簡單にお話してみると、國境といふ所には、匪賊の出沒する殺風景な所だとは知りながら、來

て見ると、先にもお話したやうに信佛讀や、地獄谷が底の知れない谷底から天空に聳立してゐるのである、國境といふ所は相當にひどい所だと覺悟は極めて來たもの、平地帯から來て見て想像に堪へて

で、ガツカリとしてゐる所で、世の一切のものを感嘆するかの如く、眼前に聳立してゐる念佛讀や地獄谷を眺めては愈々腹を抜かし「なんぼひどいとはいへ、こゝろ」と思はなかつた……」

とすつかり腹を抜かれた平地帯の驛驛者達は、連成の驛表を早速執筆でしたゝめ上、廻れ右をしてスタコラ元來た道に逃げるやうにして引返して行くのである、其處驛驛時などといふ峠が出來たのであるが、長期建設戦の非常時局

下の近では、流石にそんな心臓の弱い腰抜はなくなつたとの事である



それから二時間過ぎた午後の四時になつても我々一行の自動車は未だ念佛讀を抜け切らずに、驛行を續けてゐたのである、丁度午後四時半頃冷汗をビッシヨリかき乍ら、やうやく念佛讀を抜け出んとする時、はるか前方にこの山中で

先のお話の通り氷に閉された上に雪が一尺餘も積り非常に道が危峻であつたために、午後二時に前に

×……×

「全く遅れて何とも申譯ありません、お蔭様で兩脚の下は汗でビッシヨリです」

と答へると「いや御無理もない事です知事閣下が來られた前日トラクタが鴨綠江上に墜落しましてね、それで實は心配した譯なんです」と説明する、眞紅な夕陽は積雪の連山を染め下眩の月が大白の連山に掛り初めた頃午後六時半我々一行は山口新堀坂署長、温木警務局長、安部警務所長、森警務所長、大浦警務分隊長、聯合公署さん等に迎へられて無事到着したのである、そして我々一行の到着を待ちわびて居られた警察、事實局、郵便局その他各官廳の職員御家族の方々に對して、警察の講堂において慰問の御挨拶を述べたのであるが、五年前私が訪つた時もやはり夕方、御挨拶も同じ場所ですべたのであつたが、只當時は暗いランプであつたのが、今は電燈に變つてゐたのに氣が付いた時は感慨無量であつた。

起つてゐるのではないかと署長初め一同實に心配しましたよ、まあ無事で宜敷う御座いました、ハ、ハ、ハ……」

池田生

の重傷を負つたのである。又高木警部補は重傷二發を身を受けたが、それが皆重傷の轉に當り、奇蹟的に一命を免うしたのである。討伐によつて匪賊を一度に四名も倒し、多数の小銃彈藥被服等を虜獲した事は從來その例を見ず、國史に輝然たる武功の一頁を加へたのである。

(寫眞) 同つて左から中村部長、警員、武田警部補、高木警部補、角谷支局長(十三道溝前警員以上にて)。

白雲嚙々の 國境慰問行

池田生

(六)

新設後部の慰問は本年に入つてからすでに数回に亘つて慰問を受けてゐる。木材の都新設城を中心とする大森林も、最近では殆ど伐採し盡され、鴨綠江岸における肉體の本林業者はその大半が國內に退出して森林の開發に全力を注いでゐるのである。所がこれら木材業者、職員の最も好むとする目標である。何等は食糧にこまる。作業所を備へて衣服や食糧を、必要に振舞つてゆくのである。現に現するものがない。山田池

完全に保護する事は最も重要な事であつて、國境の各署では森林警察隊を組織してこれを監視し、對岸の作業場に派遣して保護警戒、當つてゐるのである。所が去る一月廿一日新設城對岸鴨綠江十三道河子の本林作業所に突如として森林不明の共産匪四十名が襲撃し來つたのである。獲つてこの事あるを森林警察隊は、警務員と協力、これにして果敢と奮然と反撃を加へ、匪徒に抵抗する。匪徒二十名、これを捕縛せし

この時警察隊側には一名の負傷者もなく何等異常はなかつたが、賊側は死傷二個を遺棄し、彼等が命よりも大事にしてゐる長銃二挺及び上り彈多數を遺棄したのである。更に最近對岸における匪賊の蠢動状況を後方、者の情報に基き、送にお傳へして置く、彼等は自分等の隊をどんな名目で呼んでゐるかといふと稱して東北抗日聯軍と呼んでゐるのである。全くもつて吹き出した。なる位である。金日成の匪隊を初め大小十餘の匪隊は

越へて一月十八日長白縣四十里坪江岸より約十餘里の森林中に潜伏中であつた抗日聯軍の共産匪隊間長の率ゆる一隊は、同日午後十時頃江岸對岸の大湖上に來襲し、麥粉數袋、布團二枚、時計一個その他約五百餘圓に相當する物品を掠奪し、行き歸けの賦實に人質二名を拉去して進退したが人質二名は約二週間の後、解重なる解重の隙を伺つて逃げ歸つて來たのである。又一月廿四日抗日聯軍の匪隊が金

めしい肩書を自分勝手に付けてゐるのである。さきに述べた、金龍水の如きは東北抗日聯軍第二旅第六師團長といふ堂々たる肩書を持つてゐるのである。この軍需官が去る一月十一日十三道河子附近一帶の部落を襲撃して多數の食糧や衣服を掠奪して行つたのである。



約一里の地點大北十里の部落に現れ、部落民が後生大事に畑の中に隠してあつたシヤガ薯數百貫を密奪して、本據に持ち去つてしまつたのである。更に又一月二十九日鴨綠江四挺、長百六挺を有する金日成匪二百名の内五十名の一隊は食糧補充のため新設城の直對岸二道河子驛を中心として森林警察隊兵部隊と遭遇し激戦四時間及んだが匪隊の頑強なる抵抗によつて勝利が得せず、夕刻に到つて騎兵隊がやうやく苦戦に陥つた事を知つた南滿洲林業警察隊が急遽援投に出勤、勇戦奮闘の後、遂に匪隊を潰走せしめたのであるがこの戦いにおいて討伐隊は一名の負傷者を出し、匪隊は死傷一個、擄取を極めた五十挺發自願短銃一挺小銃一挺彈藥多數を遺棄して潰走したのである。

の機を伺つてゐた金日成は、二百名の本隊を率ひて、十三道河子四挺城における半島人より成る第一旅團部を襲撃し、匪隊警察隊との對峙電話を切斷した上、機銃四挺を以て同部落に猛射を加へ他の一隊はこの機に乗じて部落内に侵入して婦女子に對して脅威嚇を暴行を加へ、更に放火、擄取を敢行の後、一物も餘さぬ迄に食糧物資を悉く掠奪して引揚たのである。この擄取によつて半島人民三名は遂に匪隊の犠牲となつたのである。現に流石の匪隊も我が國境警察隊と南滿洲國軍の緊密なる連絡による大討伐に、手も足も出ず大部隊を二十名、三十名の小部隊に構成せし或は軍衣に化け、隠匿處にあへき乍ら兇暴の果てを露作らした大討伐に勝つてゐるのである。金日成は去る一月十九日南滿洲東部新設子溝森林警察隊兵舍前に於ける新設子溝

白雪皚々の 國境慰問行

池田生

(七)

以上述べたのが最近における新雪
被覆における慰問の情勢である
其處では少くも管林署の事業に
ついて述べてみることにする、國境
における管林署の事業として、國境
開發の先驅をなしてゐるのである
あの峻岳重嶺たる國境線において
雪の夕べ、吹雪の朝、又は晴れ
江の水が沸く熱帯の國境線におい
て只黙々として商業資源の開發に
費ひ、努力を凝らす管林署
員には、警察官にも増して言ふに
言はれぬ苦心があるのである、な
ぜかといふと慰問の目標となるの
は、常に警察官や水林業者、作業
員であるのである、その苦心は、

れた作業の難事は、彼等の最も
恐れてゐる時代、其の目をかすめる
事が出来、食糧、被服等が比較的
豊富に供給せられてゐる所から彼
等に取りつては絶好の好料とせられ
てゐるのである
X.....X

過去における慰問の難事は、被服の
大半は、皆この作業員が蒙つてゐ
るのである、彼等は、現存の行を
業所に加へるばかりではなく、時
としては作業員を派手にして人質と
し多額金品や食糧、被服を要求す
るのである、そしてこれに應
ぜなかつたが最後水林の伐採業出
てゐる、その苦心は、



新雪被覆の管林署の管轄區域は
威鏡市道支那、三水の二部八ヶ面
に跨りその廣さ約に三百方里、總
面積に約に四十六萬七千ヘクタ

廣大な地域内において長期建設
戦の時期、人的資源の不足に悩み
つゝも、平面的資源の無窮増加
に對して生産を確保しつゝ前記の

如き幾多の困難を敢然と克服とな
がら、渾身の力をこめて國境の
林業員は一致協力、戦線の開發、
保護、造林等に對して森林國に

勇往邁進しつゝあるのである、誠
に、渾身の力をこめて國境の
林業員は一致協力、戦線の開發、
保護、造林等に對して森林國に

二月二十一日午前九時頃かしの新
架坡に限りなき名義を惜みながら
瀨口署長を初め國境の國手として
東奔西走、患者治療に努めつ
つある瀨谷公警、その他各官廳
署員、職員、無家族の方の大見
送りを受けながら、私達一行は高
木署署長の案内で自動車に便乗
瀨谷署長在所に向つたのである、
瀨谷江岸より整立した警備を、く
り抜き全くカーブの角度を無視し
て作つた地盤の細道を、自動車は
右に走り左にわたりながら徐々
と進んでゆくのである、一間行つて
ヒヤリ、五間進んでヒヤリとさせ
られ、全身は全く凍直し脇の下か
らは冷汗がたら／＼と流れ出して
ゐる、ホイールと道間は五寸も差
がない、二、三寸もハンドルを切
りこめば、もうとなりの崖に墜ち

である、流石に高木署署長も氣
味が悪いらしく、運転手君に對し
て「おい氣を付けてやつて呉れよ
……」
と注意するそで私に向つて
「此の道は昔家が作つたので
はない、我々が部落民と協力し
て懸命に作つた道ですからね、
全くカーブの角度なんかは、計
算に入つてゐないのです……」
と道の出来た由を説明して呉れ
る、經行に難行を続ける事三時間
半、午後三時三十分
X.....X

命からがら瀨谷署在所に逃げ付
いたのである、此處は好に警察署
と新架坡警察署間に於ける瀨谷江
岸の最も要衝の地で、武田署署
長以下〇〇名の署員が駐在し、江
岸の警察に當つてをられるのである
先程もお話したやうに無理天理に
自動車を通せば運らぬ事はないが
普通は瀨谷江岸を徒歩で通過して
ゐるのである、因つて瀨谷江岸
に向つたのである
（官費は積蓄に費はれた管業著作
費）（つづく）

「おい氣を付けてやつて呉れよ
……」
と注意するそで私に向つて
「此の道は昔家が作つたので
はない、我々が部落民と協力し
て懸命に作つた道ですからね、
全くカーブの角度なんかは、計
算に入つてゐないのです……」
と道の出来た由を説明して呉れ
る、經行に難行を続ける事三時間
半、午後三時三十分
X.....X

命からがら瀨谷署在所に逃げ付
いたのである、此處は好に警察署
と新架坡警察署間に於ける瀨谷江
岸の最も要衝の地で、武田署署
長以下〇〇名の署員が駐在し、江
岸の警察に當つてをられるのである
先程もお話したやうに無理天理に
自動車を通せば運らぬ事はないが
普通は瀨谷江岸を徒歩で通過して
ゐるのである、因つて瀨谷江岸
に向つたのである
（官費は積蓄に費はれた管業著作
費）（つづく）

白雪皚々の 國境慰問行

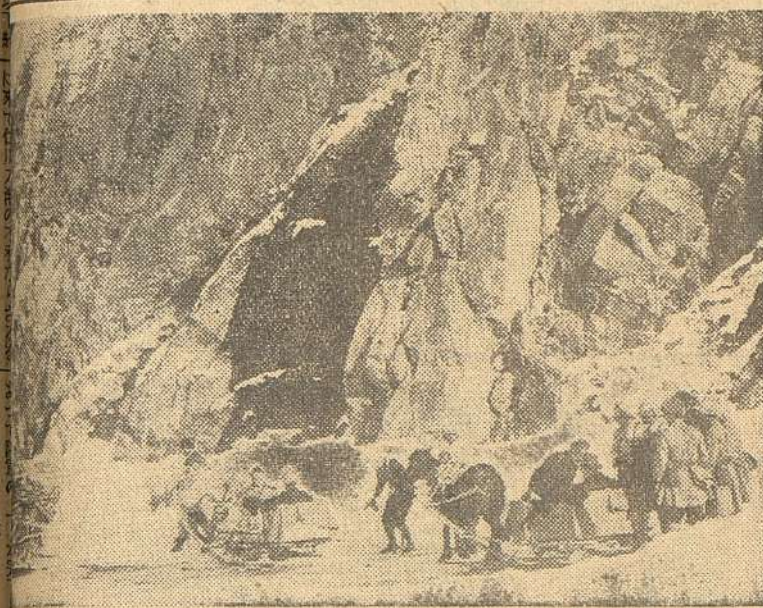
生田池

(八)

新加坡警察署管内における駐江
岸北嶺の駐在所である地蔵駐在
所には、我々一行に萬一の事があ
つてはと、好仁警察署特別警備隊
長日高重範警備補が、日本刀を腰
にたはき、武裝姿もいかめしい
隊員六名を率ひ、ソリ二臺を用意
して我々一行の到着を待つてをら
れたのである、地蔵警察署の慰問
を済ませた私は、此處を見送つて
下さつた高木、武田兩警備補を始
り、山口警察署の慰問を終る

の中村部長、角谷支局長と共にソ
リの人となり、三十餘キロ上流の
好仁に向つて進出したのである、
此處でちよつとお話したい事は、
從來冬期における國境線唯一の交
通機軸はソリを利用してゐた
のであるが、最近國境線道路の
完成と共に、自動車交通の便が開
け、現在では總て國境線の交通は
自動車をもつて行はれてゐるので
あるが、國境線においても幾帳な
な、山口警察署の慰問を終る

麓の姿でこの風間だけ通つてゐる
のである。
「チャンチュウ飲み、飲みス
ン
ガリゆけば……」
といふ植田國境線守の作になるス
ンガリ節が思ひ出される。
X……X
古風な十數個の支那鈴を兩の頬に
釣した驢馬は、チャン／＼／＼／
／＼と鈴を鳴らし乍ら遠風を舞も
なく積雪に覆はれた山間の遊しい
氷上を走つてゆく、とくすれば吹
雪の舞の日は、好仁にソリ



は、今年は都合に濡かいと云ふ事
である、それでも慰問計は零下二
十餘度を降り、毛布二枚を頭から
ガツブリとかぶつてゐても、氷上
を渡る風は身を切るやうに冷たく
足の指先がきり／＼と痛んで来る
それも鈴の音を聞いてゐると、何
だか流浪人の持つ一抹の哀愁と共
にロマンチックな感に打たれたので
あるが、武裝いかめしい隊士に周
圍を嚴重に警戒せられ乍ら進んで
ゐる事を感した時、流石に國境だ
なあ——といふ感感を深くさせられ
るのである。
郷山署管内と新加坡署管内の中間
に位してゐる好仁署管内では、頗
る五十キロの國境線を有してゐる
が、地勢の關係上最も交通の便が
悪く、江界を監視する警察官の苦
も、江界を監視する警察官の苦

新加坡署における高木忠警備補と
共に、好仁署には豪集をもつて喝
る日高特設警備隊長があり、大川
署長のもと〇〇名よりなる警備隊
の勇士を率ゐて、雪の夕べ、吹雪
の朝警備の重任に當つてゐるので
途中主将、副将、警備等の各駐在
所を訪問慰問しつゝ、最後に仁山
駐在所に到着、同駐在所を慰問の
後此處で再びトラックに乗りかへ
赤陽長白の彼方に渡り雪間漸くせ
まる午後七時半、大川署長、金好
仁隊長、松賀小學校長、郵便所長
等を初め職員家族の方々の盛大
な出迎へ裡に無事好仁に到着し、
一同に對して慰問と後方民衆の赤
誠をお傳した後、同地官民有志に
よつて催された心からなる歓迎宴
に参んだのである
（雪風は積雪を捲き上つた塵埃を
舞上、ソリに乗つて行く人たちに

白雪皚々の 國境慰問行

池田生

(九)

其處で對岸に於ける匪賊の活動状況を押してみると昨年の秋以來漸く軍の威成第二旅團高田少將の率ゆる討伐隊が討伐を開始して以來、對岸長白縣内において匪賊と數次互つて交戦し双方共に多數の死傷者を出したのである、流石の匪賊も漸く軍の威成の威に堪へかねて敗退し、金日成の匪隊約一百名は鴨綠江に沿つて下流に下り長白縣と撫順縣の境界に渡つたはる老嶺山脈の峻險地帯を這んで此處に本據を置き、江一帯の部落を襲はんとし、掠奪、擄奪、放火

て白頭山麓に追ひ詰められてゐた金龍水、金周覽、庄吾等の大小各匪隊も討伐隊が下流方面に移動したのを、これ幸ひとばかりに白頭山麓を拔出して長白縣内各所に出現して、半島人越江農民の集團部落を襲撃し食糧物資の掠奪を敢行すると同時に一面盛んに「軍主義宣傳を行ひ同志の獲得に努めつつある」といつた状態である。

▲越へて一月十四日系統不明の共匪の一隊は十七道溝直所德里の半島人部落を襲撃し多額の金品を掠奪逃走したのである
▲一月十七日、これ又系統不明の共匪の一隊は十七道溝大陽村に來襲金品糧食を強奪
▲一月二十六日、共匪金日成の率ゆる百五十名の一隊は五道溝嘉魚河の木村作業所を襲撃し、運材に使用する牛三十二頭其他金品糧食を強奪の上老嶺山脈の奥深く逃走したのである
▲一月二十八日、八道溝利明水に於て滿軍討伐隊と金日成一隊の匪隊三十名と遭遇交戦し、滿軍側は匪賊一名を射殺し長銃一挺を擄獲したが此の戦間に於て滿軍側は二名の戦死者二名の負傷者を出したのである
▲一月二十九日、十三道溝紅

を交へた結果一名を射殺し小銃一挺を擄獲したが、此の戦間に於て討伐隊側にも戦死者一名を出したのである
▲越へて二月十一日金日成匪の一隊は、人道溝干把河子を襲撃し馬二頭人夫四名を人質として掠奪したのである
▲二月十四日道溝上湯城里の集團部落に金日成の一隊が出現し部落民より一物利さぬ迄に掠奪を敢行したのである
▲二月十六日滿軍討伐隊と金日成匪五十名が遭遇し、激戦一時間半に亘つたが此の戦間に於て匪賊側に多數の死傷者を出したが滿軍側は二名の負傷者を出したのである
▲二月十八日金日成の一隊百名は十三道溝西崗城に於ける半島農民の第二集團部落を襲撃、同地に於ける警備軍と猛烈な戦闘を交へたのである、此の戦間に於て賊匪にも多數の死傷者を出したが農民の一名は賊弾に當つて即死を遂げ、二名の負傷を出し十名は人質として掠奪せられたのである



領内の部落を襲撃するよりも、物すべく、密偵を領内に派しては虎視眈眈として鮮内襲撃の機を伺つてゐるのである、このやうに滿洲國は確立したといふものゝ邊境の治安未だ半にあらず、國境警備の重大性は益々加はつて來るのである、殊に好仁署管下は交通最も不便を極め、匪賊の襲撃には最も好都合に出來てゐるのである、従つて好仁署警察の張り切り方は大したもの、大川署長は日夜特設警備隊員を督勵し勇猛果敢で戦つてゐる日高警備隊長は〇〇名の部下を率ひて、匪賊をして一歩たりとも鮮内に近付けしと悲壯な決意のもとに、日夜血みどろの戦闘を續けてゐるのである、一夜を好仁に明した私は、此處に咸南の慰問行を無事に済ませて好仁署のトラックに便乗し、日高隊長の厳重なる警備のもとに鴨綠江に沿つて再び恵山に歸着したのである、私としては未だ「驚きたい事は山程あるのであるが、紙面の都合上皆略の御禮」と御禮を祈りつゝ、ソソを置くことにする、